

看護技術と考え方をオーダーメイドで学ぶ いきいきと育ち、働くために



佐藤直子氏(後列右)、と受講者の皆さん。

表 ● 講座スケジュール

回	日程	講座内容
1	4月14日	午前:体位交換・移乗、陰部洗浄・オムツ交換、トイレ介助 午後:午前のふり返り、全身清拭、内服の支援(予薬の5R)
2	4月21日	午前:体位交換・移乗、陰部洗浄・オムツ交換、トイレ介助 午後:これまでのふり返り、呼吸フィジカルアセスメント、気管内吸引
3	4月28日	午前:体位交換・移乗、陰部洗浄・オムツ交換、トイレ介助(自信がつくまでくり返し) 午後:これまでのふり返り、腹部のフィジカルアセスメント、洗腸、膀胱留置カテーテル管理(入れ替えよりも管理重視)

現場で活かせる研修

今回、研修に新卒を送り出した事業所の教育担当者であり、

「見る視点がわかると、気づくことも増える」
取材日は研修会の第2回にあたり、聖

「見る視点がわかると、先輩と同行訪問話す佐藤氏は、その後の腹部アセスメントも、単に技術を教えるだけでなく、見る視点(技術の意味)を理解することを重視した指導を行なっていた。先輩との同行訪問において、先輩が見てほしいところと、新卒が見ているところが同じであるとは限らないが、そのような溝も同研修会が埋める役割を果たすことになる。」

本的な看護技術について慣れ、習慣的に観察するポイントを理解すること、そして、技術のみにとらわれずに利用者に必要なことを探求していく訪問看護の姿勢を学ぶこと」を狙いに開催されたもの。

本研修のプログラムは受講者の所属する事業所の要望にもとづいて設計され、今回は必須の訪問看護技術に焦点を絞った内容となった(表)。

この日、参加者が最も熱心に取り組んでいたのが、体位交換、移乗の練習であった。これらは看護基礎教育において教えられることが少なく、また、ステーションにもベッドがないため、新人には練習する機会が少ないという。しかし、佐藤氏が一連の技術を1つひとつ分解し、順序立てて解説することで、初めはかなり手間取っていた参加者も、自然と技術を自分のものとしていた。

「見る視点がわかると、先輩と同行訪問話す佐藤氏は、その後の腹部アセスメントも、単に技術を教えるだけでなく、見る視点(技術の意味)を理解することを重視した指導を行なっていた。先輩との同行訪問において、先輩が見てほしいところと、新卒が見ているところが同じであるとは限らないが、そのような溝も同研修会が埋める役割を果たすことになる。」

「見る視点がわかると、先輩と同行訪問話す佐藤氏は、その後の腹部アセスメントも、単に技術を教えるだけでなく、見る視点(技術の意味)を理解することを重視した指導を行なっていた。先輩との同行訪問において、先輩が見てほしいところと、新卒が見ているところが同じであるとは限らないが、そのような溝も同研修会が埋める役割を果たすことになる。」

佐藤氏とともに今回の研修プログラムを立案した岡田理沙氏(ケアプロ訪問看護ステーション東京、写真前列右端)は、「新卒者に根拠をもって看護を実践してもらうために外部の研修会に参加させているが、すぐに活かせる状況にはならない。しかし本研修は、前回の学びを現場でどのように活かしたか、または現場で上手くできなかったことをリフレクシオンする時間が設けられていることで、研修と現場が有機的につながる実践的な研修となっている」と手応えを語る。

参加者は、職場の先輩から事前「学ぶべきこと」を課題としてもらっていることもあり、率先して質問し、自発的に教え合うなど、積極的に学びようとする姿勢が印象的であった。自分一人で利用者にケアを行なわなければならないため、責任感もあるだろうが、それを感じさせる以上に学ぶこと・発見することを楽しんでいて。

